

三重大学弓道部 創立の経緯

昭和四十四年度卒業 山本 正幸

一、はじめに

私は三重大農学部にて昭和四十一年四月に入学し、昭和四十五年三月卒業した大学第十八回生です。大学入学と同時に弓道部に入学し卒業まで弓道部に所属していた。そして七十六歳になる現在も、郷里である福井県鯖江市弓道協会に所属し弓道を続けている。

私が入学した当時の弓道部は、丸の内の教育学部と、上浜町の農学部との両方に、それぞれ弓道場があり、別々に練習をしていた。そして私が三年生になった昭和四十三年に、上浜町のキャンパスに教育学部と農学部が統合されると同時に、新しい現弓道場が完成し、弓道部も統一して上浜町で練習を行うようになった。

そこで今は無い教育学部と農学部の弓道場や、弓道部の創立の経緯を、後世に記録として残しておきたいと思い調べてみた。

最初に三重大高等農林学校時代の弓道部や弓道場について、次に大学になってからの学芸学部の弓道部、弓道場が創立されたことについて、三番目は大学になってから、農学部の弓道部、弓道場の再開について調べた。

資料は弓道部後援会会報の寄稿文と後援会住所録を主にし、三番目の大学農学部弓道部再開については東海

学生弓道連盟発行（昭和五十七年）創立二十五周年記念誌を主にして調べた。

二、三重大等農林学校弓道部 創立の経緯

私が蔵書している弓道部後援会会報は巻九号から巻六十五号までであり、その中で高農時代の先輩が寄稿している文で、弓道部、弓道場に関する記述があるのは次の三寄稿文である。

- ① 会報十四号 高農九回卒 出口武氏
 - ② 会報十九号 高農十九回卒 前田實氏
 - ③ 会報二十号 高農十一回卒 岡村武郎氏
- 次から寄稿文の抜粋を順に掲載する。

- ① 会報 No 十四号 「高農時代を顧みて」

高農九回卒（昭和五年入学、昭和八年三月卒）

出口 武

（前略）

『当時の弓道部は創成の時期とも云うべきでしょうか。昭和七年初めて弓道部が独立し（それまでは諸技部弓道係として）馬岡隆清先生に面倒を見て戴いていた』

- (2) 山本光政教授が部長となり、上原校長、馬岡教授等絶

えず道場に現れては部員の激励叱咤に当たり、共に射を競うという状況であった。

外部からも武徳殿の小林、金子等の諸氏、大日本弓道会の諸氏等、時折道場を訪ねて中広い支援が得られる等、恵まれた環境にあった。これと云うのも三重の弓道界生みの親であり、育ての親でもある師範市川博先生の人徳の然らしめる所で、その御熱意と御薫陶と部員一同文句なく一様にその人格に傾倒していきましました。

弓道場を黒字学園（現在の国児学園）の側に新築されたのもこの頃です。矢場造成に勤労奉仕の汗を流したものでした。』

（中略）

『当時弓道部で活躍されていた方々を一、二紹介すれば七回卒（昭和六年三月卒）では(3)本田泰主将、八回卒（昭和七年三月卒）は富永清次主将、杉山今吉マネージャー、名物選手の岩本勝美氏、九回卒（昭和八年三月卒）が私と小菅一夫マネージャー、名物選手の淡輪鋭一氏。十回卒が梶原高雄主将、小泉富治マネージャー、十一回卒が岡村武郎氏や宇野亮夫氏、十二回卒の青山清氏、十三回卒が園浦和己氏等々が引継ぎ引継がれて弓道部の地位を高めるため、心血を注がれたのである。』

（後略）

(1) 馬岡隆清氏は昭和十八年に退職

(2) 山本光政氏は昭和十一年に退職

(3) 本田泰氏が主将をしていたのは昭和五年（三年生）の時と考えられる。

② 会報 No 十九号 「三十余年前を振り返って」

高農農科 (1) 十九回卒（昭和十五年入学十七年九月卒）

前原 實

『入学当時、顧問は林科の(2)肥後純先生、師範は故市川博範士、主将一杉雅之さん（林科十七回）でした。道場は現在の本部棟北側に当たる国児学園の東南側で

(3) 間口約六米程度のものであったと思います。従って通常の練習は三人立で、五人立の場合は、一、三、五、二、四の順で行射するようにしていました。

練習中はよく隣の国児学園が見物しており、たまには矢取りの手伝いしてくれましたが、危険があるので心配したものです。

道場の板かべには先輩部員の名札とともに、二十射皆

中の(4)達成者札(公式戦、または公式練習中に記録されたものに限っていました)が掲げられてありましたが、部員は誰もが、早く、自分もその仲間に入りたいと願ったものでした。』

(中略)

『全国大会は昭和十五年まで、毎年京都の武徳殿開催していましたが、この年、大東亜戦争がはじまり、翌十六年から中止されました。』

東海学生は、参加校は、岐阜高農、神宮皇學館、名古屋高商、浜松高工、八高、岐阜薬専、等だったと思います。小生在部中の戦績は、昭和十六年春、同春秋、及び昭和十七年春の三期連続優勝が唯一の誇りです。』

(後略)

(1)昭和十六年は三月と十二月の二回卒業があり、十九回生は昭和十七年九月卒になる。

(2)肥後先生は昭和四十四年に退職

(3)私が昭和四十一年に写していただいた写真は、六人立で、前三人、後ろ三人で競射をしているので、間口は約八米程度あり、前方には一段高い審判席がありました。

(4)昔のこの弓道場にあつた二十射皆中の札は、現在の弓道場が新築された時に、名前が判明する五枚を現弓道場の前方、私の名札の前に掲示しました。しかし令和五年には掲示してありません。

③ 会報 No.二十号 「思い出」

昭和十年高農卒(昭和七年入学昭和十年三月卒)

岡村 武郎

『私は、当時の宇治山田中学から高農に入り中学から続けていた弓を、高農に入ってから引き続けて引いたわけで、その頃の中学は五年制でありましたので、当時県下では津中が一番強くて、五年生卒業の時は有段者も中々多くて、中学である程度実績を上げて来た者は、一年から選手として使われ、私も一年から出場し万年トップで引いて半矢選手で、私がチームの最下位になる時は、常に勝ち試合になったことを思い出します。』

当時は、農科、農業土木科、林科の三科で授業が終わるのが五時、それから練習をして参宮線で宮川駅に帰るので、家から帰るのは九時頃で、夕食は二回食ったのを思い出します。』

(中略)

『(1) 土木十 小泉、土木十一 宇野と私、土木十三 芝山、農科九 出口、農科十一 丸山、農科十二 若山、農科十三 市川、林科九 淡輪、林科十一 武政、林十梶原、林科十二 長尾、林科十三 園浦
 しかし現在全弓連に名前が出てくるには兵庫の宇野と私と柿本くらいで、高農では、弓を引いている人が多かったのに、引き続き引いている人は、少ないものだと残念に思っております。又当時部長だった山本光政先生は、現在田無市で東京第三に属され、教士八段で老齢にかかわらず、元気で毎年京都大会へ元気な顔を出しておられます。』

(後略)

(1) 九〜十三の数字は高農九期生(昭和五年入学 昭和八年卒業)と、十三期生(昭和九年入学 昭和十二年卒業)の人である。

年号 昭和	西暦	高農 入学 期	高農 卒業 期	部員 一年	部員 二年	部員 三年	部員 合計
3年	1928	7	4	1			1
4年	1929	8	5	3	1		4
5年	1930	9	6	3	3	1	7
6年	1931	10	7	3	3	3	9
7年	1932	11	8	4	3	3	10
8年	1933	12	9	4	4	3	11
9年	1934	13	10	5	4	4	13

④ 会報住所録による部員数の推移

⑤ まとめ

昭和四く六年には弓道を行う部員や指導者がいて、昭和七年には弓道部として独立し、また弓道場も昭和七年頃に国児学園の東南側に新築され、昭和十九年の卒業生まで活動していたと思われる。この弓道場は、戦後一時物置になっていたが、昭和二十九年頃には復活し、私が在籍していた昭和四十三年まで利用されていた。ところで、国児学園は昭和四年から現在、令和五年まで同じ場所にある。

写真一、三重高等農林学校正面全景

写真二、昭和三十年代の農学部上浜町キャンパス

写真三、昭和四十一年後半 改築途上の校舎

「農学部新築中の校舎と旧校舎の一部」

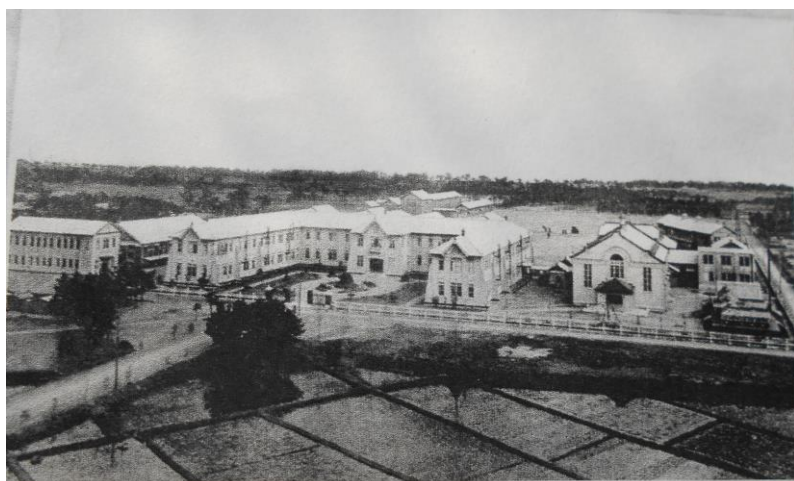
農学部改築工事は昭和三十九年度着工、四十年三月に第一号館、四十一年六月二号館、四十二年二月三号館が竣工した。この写真には旧校舎の本館の北側半分、実験室三棟、化学実験室、三翠寮がまだ残っており、新しく農学部の一、二号館と材料、水理実験室が竣工し三号館が工事中なのが見える。私が入学した時はこの写真の状態で、更に私は三翠寮に一、二年生の時在籍していた。

出典

※ 写真一、写真二は三重大学六十周年記念誌。

※ 写真三は農学部発行の創立五十周年記念誌。

写真一

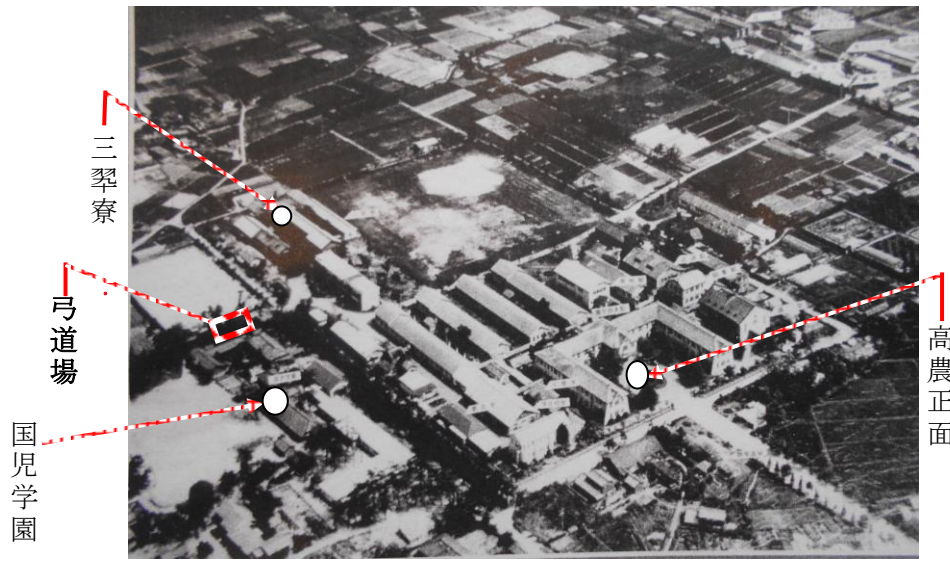


三重高等農林学校全景

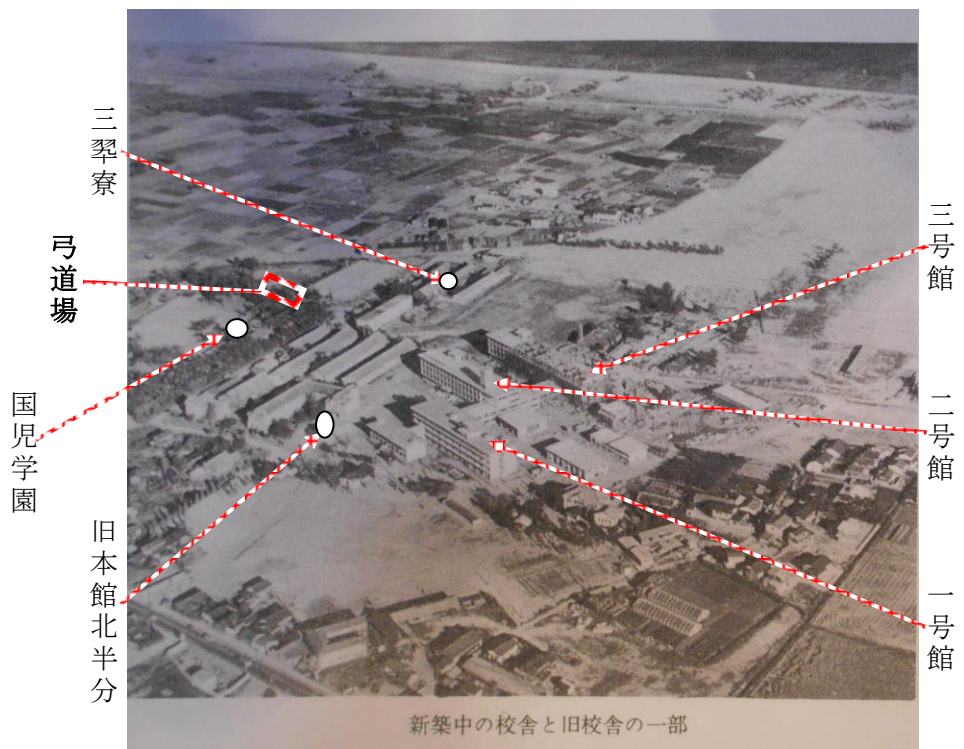
(津市上浜町：1929（昭和4）年）

正門の位置が現在よりも南側に寄っている。

写真二



写真三



三、大学学芸学部弓道部 創立の経緯

布川先生が学芸学部弓道部創立に関する寄稿文を会報に四編掲載されているのを次に順次記載する。なお学芸学部は昭和四十一年に教育学部に改称した。

① 会報 Vol 二十六号（昭和五十九年）

（前略）

『七期生が二年の時成立した、戦後の新生三重大学弓道部も見春三十五期が卒業します。丸の内（ま）で塚（つか）のみの道場作りに始まり、射場建設に移り、三年後に射場ができて部員数が十五名程度になって大喜びした時もありました。

四十三年現在地に移った時、丸の内から現在の矢道南側にサンゴ樹を移植、農学部からテストピースを貰って矢道の芝の仕切りに並べました。

弓道部ではなく土方部だと笑い乍ら、共に汗を流した時代が懐かしく思い出されます。』

（後略）

② 会報卷三十号（昭和六十三年）

（前略）

『三重大に勤めて数年が経った頃、県の弓道連盟に加盟して射会参加した時には、会員数は僅かに四十名足ら

ず、射会参加者も二十名前後であった。三十二年に連盟の理事長の役を引き受け、この程度の小組織なら仕事の片手間に何とか発展させてみようかと、軽い気持ちで組織作り、仲間作りに若い情熱をぶっつけているうちに、足下の三重大学にも弓道部を作ろうと、当時の丸の内の旧学芸学部（教育学部）に六・七期生と共に屋外の射場を作り、やがて学部長や会計課長に直訴して、まず塚を九期生の時に間口七メートルの道場を作ってもらって、充実した弓道部が再生したのである。』

（中略）

『戦前の三重高農・三重師範の両弓道部に連なり復活して既に三十年、やがて県立大学の国立移管、工学部、人文学部の創設による文字通りの総合化を果たし乍ら、弓道部が依然として旧高農時代の移改築という老朽建造物（実際は殆ど完全な新設計による新築）まま放置されているのは、県立移管時の弓道場と併せて二道場の存在している事が唯一、新造を阻んでいる理由である。』

※三重師範の弓道部に関する資料は何も無。

③ 会報卷三十三号（平成三年）

『振り返れば、学生時代に親しんだ弓道を再開したのが昭和二十八年。三十一年秋に三重大学学芸学部（現在の津市役所の地）で当時二・三年生（六・七期生）の数名に頼まれて弓の手ほどきを始め、翌年大学の了承を得て、校舎の片隅の空地に仮設の塚を造った。部員の労力

でブロック敷の射場、矢道の整地を行い、漸く的前稽古を始める事が出来た。』

(中略)

『弓具も、弓の稽古も少なく、作業だけで弓を一度も握らないで部を去っていく人もあったが、この姿が大学当局の同情を呼んで、三十四年には間口七メートル、奥行き五メートルの道場実現につながった。』

(後略)

※ 射場の大きさは間口三間半、奥行き二間半と推定される。

④ 会報卷三十九号 (平成九年)

(前略)

『敗戦の昭和二十年が大学卒業で戦後の混乱期の中で京都府下福知山市にあった私立福知山高専に就職、やがて学制改革で全校が山陰短期大学に変わる時に京大の恩師の奨めで香川県農事試験場技師に転出、二十六年に三重大学に奉職した。』

当時三重大学前身の (1) 高農も師範も木造部は消失、技術 (職業) 科と家庭科は松坂市殿町の青年師範 (現殿町中学) とまさしく蛸足大学。丸の内校舎に一本化した昭和二十八年に大学教職員のリクリエーション委員の一人に選ばれて僅かな予算の中から巻藁を一つ購入して貰い、

焼け残った鉄筋校舎の空き部屋に据えて、学生時代に購入し、転勤の度に持参していた自前の弓具で稽古している時、その空き教室を稽古場にしていた剣道部員の (2) 賀永、後藤らの諸君が興味を持ち始め、道場を造ろうと当時に中元事務長に依頼して間口三間足らずの安土を作った。その当時農学部道場は農学部農場の収穫物置場となっていた。』

(後略)

(1) 高農の木造物は写真三を見ても、私が入学した昭和四十一年も、北半分も消失して残っていないので、布川先生は丸の内木造物だけが消失していたのを勘違いされて「両方の木造物消失」と書かれたと思われる。

(2) 賀永は賀永宏行、後藤は後藤正敏、いずれも学芸学部七期生で昭和三十年入学、昭和三十四年三月卒業、

⑤ まとめ

六期、七期の学生が二・三年生の昭和三十一年に弓道の手ほどきを布川先生から受け、三十二年に塚を造り、三十四年に弓道場が出来、農学部弓道部と統一された。

出典

※ 写真四は三重大学六十周年記念誌。

※ 写真五、写真六は山本所有写真集。



写真四

教育学部弓道場

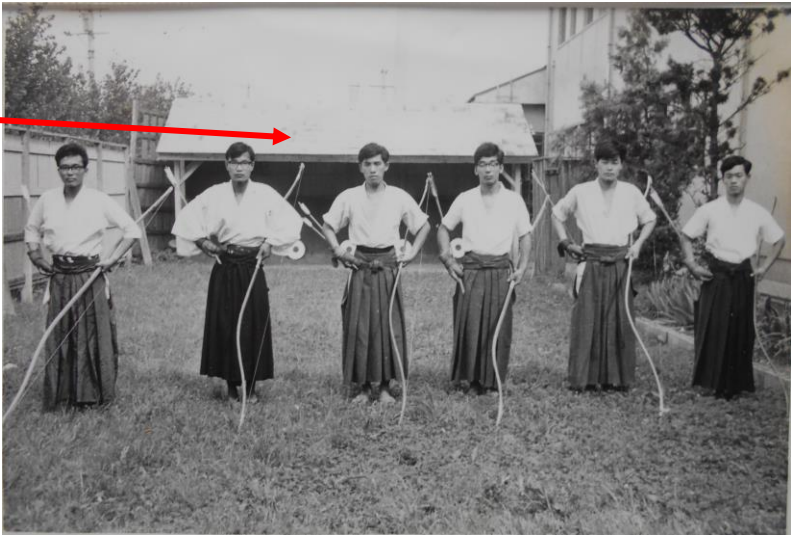
教育学部弓道場射場



写真五

(昭和四十一年五月)

写真六 (昭和四十一年八月)



教育学部弓道場の場

四、大学農学部弓道部 再開の経緯

この項は、東海学生弓道連盟 創立二十五周年記念誌「残心」(昭和五十七年五月発行)と後援会住所録を主にして推測する。

① 「残心」二十八ページ

三重大学弓道部の歩み

三重大学弓道部顧問

布川 敏三

『昭和二十八年頃農学部職員の数名の有志が上浜町キヤンパス内テニスコート横の空地に土を盛り上げて塚を築き、見様、見真似の弓道練習を始めた。

やがて彼等は練習の成果を試みたくなり、既に創部三年目を迎えていた県立医科大学(現三重大学医学部)に練習試合を申し込むと共に、チーム補強のために、学生弓道上がり、戦前の武徳会四段の学芸学部教官の私が引っ張り出された。

この事はずみとして、両学部の職員を対象に弓道の指導が始まり、やがて農学部、学芸学部(現教育学部)の学生が加わって、昭和三十二年の春ごろ、各々の学部に同好組織が生まれ、更に両学部の交流が始まって大学弓道部として統一されたのが昭和三十四年である。かくして三重大学弓道部が誕生したのである。』

(後略)

② 「残心」三十八ページ

東海学生弓道連盟二十五年の歩み

委員長 杉浦 孝則

『昭和三十二年、五つの大学（愛知大学、岐阜県立医科大学、静岡大学、三重大学、三重県立大学）の選手達、並びに連盟役員の諸先輩方の努力により当連盟が発足致しました。』

（中略）

ここで、当連盟が関与しています大会の歴史についてお話を致します。

東海学生弓道選手権大会

昭和三十二年、五大学（愛知大学、岐阜県立医大、静岡大、三重大、三重県立大）によって第一回大会が三重大学の道場で開催されました。その後昭和四十年の第八回大会から女子が参加しました。

また第一回〜第九回大会までは、各地の道場を使用して、大会を運営していたのですが、第十回大会以来、愛知県体育館に特設弓道場を設けて毎年五月下旬に行っています。』

（後略）

③ 「残心」三二ページ

東海学生弓道連盟創立の頃

東海学生弓道連盟OB会

会長 笹岡 秀孝

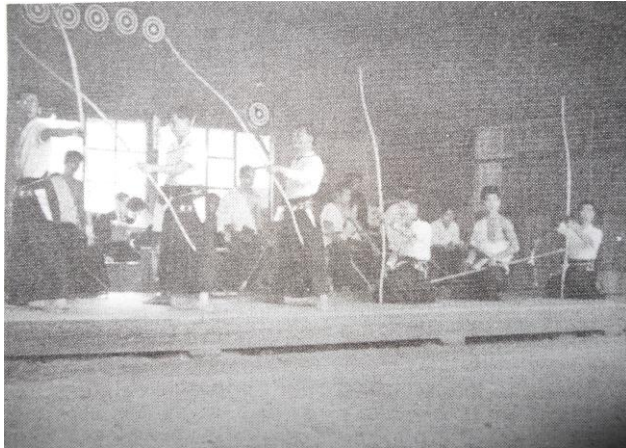
（前略）

『さて、ここに第一回東海学生弓道選手権の貴重な写真を掲げます。何か作戦上の事だったのでしよう、愛大の足田さんが肌を脱いでいます。』

（後略）

写真七

（三重大学農学部弓道場にて）



④ 「残心」四十二ページ

昭和三十一年度記録

第一回東海学生弓道選手権大会

昭和三十一年十一月三日

於 三重大学農学部弓道場

〈団体の部〉(百二十射、六人立)

三位 三重大学 四十八中

〈個人の部〉

四位 岩本 馨 (三重大)

五位 市石幹男 (三重大)

12 / 20 13 / 20
中 中
初段 二段

第一回男子リーグ戦 (昭和三十一年)

〈団体〉

三重大		順位	愛大	静岡	三重	岐阜	的中
4				工学部	県大	医大	勝数
○	67						数
×	52						的
×	55						中
○	51						
	2						
	225 / 480						

※ 岩本・市石氏は総合農科七回生 (昭和三十年入学、昭和三十四年卒) で昭和三十一年は三年生。

※ 団体戦は六人立で四試合実施している。当時の農学部 部員数は一年二名、二年四名、三年七名、四年二名、計十五名である。

⑤ 「残心」四十四ページ

昭和三十三年度記録

第二回 男子リーグ戦 (昭和三十三年)

〈団体〉

三重大		順位	愛大	三重	静岡	岐阜	的中
2				県大	工学部	医大	勝数
○	76						数
×	60						的
○	63						中
○	72						
	3						
	271 / 640						

〈個人〉

二位 賀永宏行 (三重大) 44 / 55
三位 堀田忠村 (三重大) 80 / 80
中

※ 賀永氏は学芸学部七期生 (昭和三十年入学、昭和三十四年三月卒) の四年生、堀田氏は学芸学部九期生 (昭和三十一年入学、昭和三十六年三月卒) の二年生。

※ 団体戦は八人立で四試合である。この年の部員数は教育学部十六名、農学部十七名、合計三十三名である。

⑥ 「残心」四十六ページ

昭和三十四年度記録

第二回東海学生弓道選手権大会

昭和三十四年六月六日

於 豊橋市営弓道場

〈団体の部〉(百二十射、六人立)

二位 三重大 五十二中

〈個人の部〉

四位 村田 輝久(三重大) 14 / 20 中

優秀射手表彰

村田 輝久(三重大)

第三回 男子リーグ戦

三重大はこの年のリーグ戦は不参加。

リーグ戦は愛大、静岡工学部、名古屋大、岐阜医大で実施された。

※ 村田(橋本)氏は学芸学部九期生(昭和三十二年入学、昭和三十六年三月卒)の三年生。

⑦ 「残心」四十八ページ

昭和三十五年記録

第三回東海学生弓道選手権大会

昭和三十五年

於 岐阜市民体育館内弓道場

〈団体の部〉(百二十射、六人立)

二位 三重大 五十四中

第四回 男子リーグ戦(昭和三十五年)

〈団体〉 Bブロック

三重大	順位	愛大	愛大	愛知	勝数	的中
2	×	85	短期	学院	2	数
○	○	66	80			
					231 / 480	

順位決定戦

三位決定戦

名古屋大学 70 / 160 × 三重大 79 / 160 三位三重大

※今リーグ戦はA・B両ブロックに分け、それぞれのブロック優勝校で優勝を争った。

〈個人の部〉

二位 桜井義夫 46 / 60 中

※ 桜井氏は学芸学部甲 十期生

⑧ 旧農顧問 田中庄助氏について

私が入学した昭和四十一年農学部弓道場では、田中杯という射会が実施されており、田中先生もこの射会では

元気に一緒に弓を引かれています。田中先生は昭和三十五年三月に退職され、昭和五十年始めまで、江戸橋に住んでおられました。

⑨ 農学部七期生 林雅敏氏による電話での聞き取り

林さんは、昭和三十年入学、昭和三十四年三月卒の七期生です。聞き取った内容を次に記載する。

『私が入学した時はすでに道場は綺麗になっていて六人立で練習をしていた。田中庄助先生は当時も顧問でいられて、弓を引いていた。当時の主将は岩本氏であり、昭和三十二年の第一回東海の試合は農学部の弓道部だけで出場し、私は補欠で、途中交代要員として出た記憶がある。昭和三十三年は五月十八日に初段に合格し、六月十五日には市川範士の射会が四日市市楠であって、初段以下の部で優勝をし、七月十一日には伊勢新聞主催の試合、三重県立医大、三重大学芸学部、農学部の三校による三重県弓道大会で初段以下の部で二位の賞状を貰っている。布川先生はたまに農学部弓道場で見かけ、その時弓道の指導を受けていた。テニスコート横の塚の築造については、私は何も知りません。』

⑩ 後援会住所録による部員数の経緯

元号	昭和	28	29	30	31	32	33	34	35	36	記事
入学	の期	1									農学部
学芸各部	2										
	3										
	4										
計											
	1	2	3	4	2	2	2	2	2	2	合
	2	3	4	2	2	2	2	2	2	2	
	3	4	2	2	2	2	2	2	2	2	
	4	2	2	2	2	2	2	2	2	2	
計											
	1	2	3	4	2	2	2	2	2	2	記事
	2	3	4	2	2	2	2	2	2	2	
	3	4	2	2	2	2	2	2	2	2	
	4	2	2	2	2	2	2	2	2	2	
計											
	1	2	3	4	2	2	2	2	2	2	記事
	2	3	4	2	2	2	2	2	2	2	
	3	4	2	2	2	2	2	2	2	2	
	4	2	2	2	2	2	2	2	2	2	
計											
	1	2	3	4	2	2	2	2	2	2	記事
	2	3	4	2	2	2	2	2	2	2	
	3	4	2	2	2	2	2	2	2	2	
	4	2	2	2	2	2	2	2	2	2	
計											
	1	2	3	4	2	2	2	2	2	2	記事
	2	3	4	2	2	2	2	2	2	2	
	3	4	2	2	2	2	2	2	2	2	
	4	2	2	2	2	2	2	2	2	2	
計											
	1	2	3	4	2	2	2	2	2	2	記事
	2	3	4	2	2	2	2	2	2	2	
	3	4	2	2	2	2	2	2	2	2	
	4	2	2	2	2	2	2	2	2	2	
計											
	1	2	3	4	2	2	2	2	2	2	記事
	2	3	4	2	2	2	2	2	2	2	
	3	4	2	2	2	2	2	2	2	2	
	4	2	2	2	2	2	2	2	2	2	
計											
	1	2	3	4	2	2	2	2	2	2	記事
	2	3	4	2	2	2	2	2	2	2	
	3	4	2	2	2	2	2	2	2	2	
	4	2	2	2	2	2	2	2	2	2	
計											
	1	2	3	4	2	2	2	2	2	2	記事
	2	3	4	2	2	2	2	2	2	2	
	3	4	2	2	2	2	2	2	2	2	
	4	2	2	2	2	2	2	2	2	2	
計											
	1	2	3	4	2	2	2	2	2	2	記事
	2	3	4	2	2	2	2	2	2	2	
	3	4	2	2	2	2	2	2	2	2	
	4	2	2	2	2	2	2	2	2	2	
計											
	1	2	3	4	2	2	2	2	2	2	記事
	2	3	4	2	2	2	2	2	2	2	
	3	4	2	2	2	2	2	2	2	2	
	4	2	2	2	2	2	2	2	2	2	
計											
	1	2	3	4	2	2	2	2	2	2	記事
	2	3	4	2	2	2	2	2	2	2	
	3	4	2	2	2	2	2	2	2	2	
	4	2	2	2	2	2	2	2	2	2	
計											
	1	2	3	4	2	2	2	2	2	2	記事
	2	3	4	2	2	2	2	2	2	2	
	3	4	2	2	2	2	2	2	2	2	
	4	2	2	2	2	2	2	2	2	2	
計											
	1	2	3	4	2	2	2	2	2	2	記事
	2	3	4	2	2	2	2	2	2	2	
	3	4	2	2	2	2	2	2	2	2	
	4	2	2	2	2	2	2	2	2	2	
計											
	1	2	3	4	2	2	2	2	2	2	記事
	2	3	4	2	2	2	2	2	2	2	
	3	4	2	2	2	2	2	2	2	2	
	4	2	2	2	2	2	2	2	2	2	
計											
	1	2	3	4	2	2	2	2	2	2	記事
	2	3	4	2	2	2	2	2	2	2	
	3	4	2	2	2	2	2	2	2	2	
	4	2	2	2	2	2	2	2	2	2	
計											
	1	2	3	4	2	2	2	2	2	2	記事
	2	3	4	2	2	2	2	2	2	2	
	3	4	2	2	2	2	2	2	2	2	
	4	2	2	2	2	2	2	2	2	2	
計											
	1	2	3	4	2	2	2	2	2	2	記事
	2	3	4	2	2	2	2	2	2	2	
	3	4	2	2	2	2	2	2	2	2	
	4	2	2	2	2	2	2	2	2	2	
計											
	1	2	3	4	2	2	2	2	2	2	記事
	2	3	4	2	2	2	2	2	2	2	
	3	4	2	2	2	2	2	2	2	2	
	4	2	2	2	2	2	2	2	2	2	
計											
	1	2	3	4	2	2	2	2	2	2	記事
	2	3	4	2	2	2	2	2	2	2	
	3	4	2	2	2	2	2	2	2	2	
	4	2	2	2	2	2	2	2	2	2	
計											
	1	2	3	4	2	2	2	2	2	2	記事
	2	3	4	2	2	2	2	2	2	2	
	3	4	2	2	2	2	2	2	2	2	
	4	2	2	2	2	2	2	2	2	2	
計											
	1	2	3	4	2	2	2	2	2	2	記事
	2	3	4	2	2	2	2	2	2	2	
	3	4	2	2	2	2	2	2	2	2	
	4	2	2	2	2	2	2	2	2	2	
計											
	1	2	3	4	2	2	2	2	2	2	記事
	2	3	4	2	2	2	2	2	2	2	
	3	4	2	2	2	2	2	2	2	2	
	4	2	2	2	2	2	2	2	2	2	
計											
	1	2	3	4	2	2	2	2	2	2	記事
	2	3	4	2	2	2	2	2	2	2	
	3	4	2	2	2	2	2	2	2	2	
	4	2	2	2	2	2	2	2	2	2	
計											
	1	2	3	4	2	2	2	2	2	2	記事
	2	3	4	2	2	2	2	2	2	2	
	3	4	2	2	2	2	2	2	2	2	
	4	2	2	2	2	2	2	2	2	2	
計											
	1	2	3	4	2	2	2	2	2	2	記事
	2	3	4	2	2	2	2	2	2	2	
	3	4	2	2	2	2	2	2	2	2	
	4	2	2	2	2	2	2	2	2	2	
計											
	1	2	3	4	2	2	2	2	2	2	記事
	2	3	4	2	2	2	2	2	2	2	
	3	4	2	2	2	2	2	2	2	2	
	4	2	2	2	2	2	2	2	2	2	
計											
	1	2	3	4	2	2	2	2	2	2	記事
	2	3	4	2	2	2	2	2	2	2	
	3	4	2	2	2	2	2	2	2	2	
	4	2	2	2	2	2	2	2	2	2	
計											
	1	2	3	4	2	2	2	2	2	2	記事
	2	3	4	2	2	2	2	2			

下の理由で推察される。

(一) 昭和三十二年の第一回東海学生弓道選手権大会が三重大農学道場で開催されており、この時期は昭和三十四年三重大学弓道部統一の二年前である。

(二) 後援会住所録によると、戦後農学部部員は、初めての部員は昭和二十八年入学が二名、それ以後の部員数は昭和二十九年 一・二年生で四名、昭和三十年は一・二・三生で十一名、昭和三十一年は一・二・三・四年生で十五名である。故に昭和三十年・三十一年には部としての活動は十分できたと思う。

(三) 会報三十九号に布川先生は『昭和二十八年・中略・その当時、農学道場は農学部道場の収穫物置場になっていた。』と書いてある。

(四) 林氏の聞き取りで『入学当時、弓道場はすでにきれいになっており、さらに主将や顧問の田中庄助先生や布川先生も来られていた。』とのことであった。

以上より昭和二十九年頃には農学部弓道部として、農学部弓道場を使用して、活動を始めたと推測される。そして昭和三十二年の第一回東海学生弓道選手権が三重大農学部弓道場で開催することが出来たものと思う。

昭和三十四年に学芸学部弓道部と農学部弓道部が統一されてから、昭和四十三年現在の上浜町キャンパスに学部統合される迄、三重大弓道部主将は学芸学部と農学部で一年毎交代で出していた。

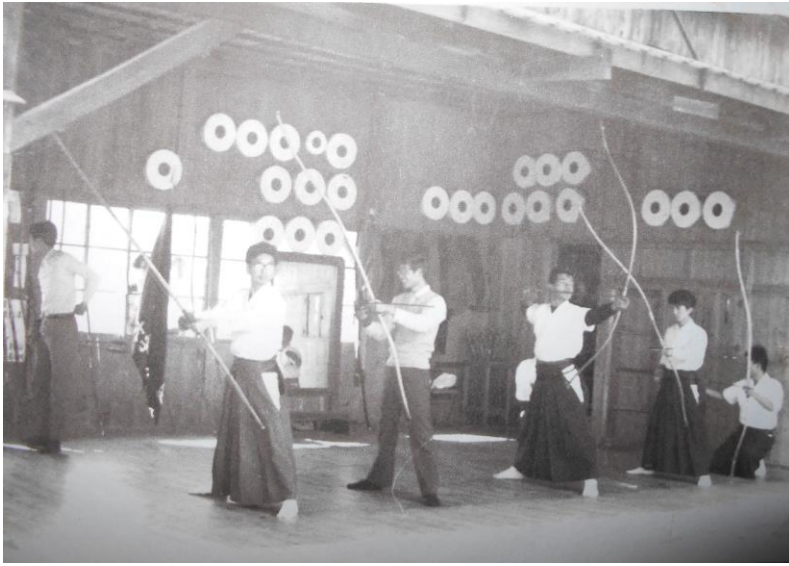
出典

写真八は三重大学六十周年記念誌。
写真九、写真十は山本所有写真集。

写真八 (平成二十五年上浜キャンパス)



農学部
弓道場跡
国児学園
旧農学部
一号館



写真九
 (旧農学部弓道場射場)
 十回生盾争奪戦(昭和四十一年十二月十八日)



写真十
 (旧農学部弓道場的場に向つての撮影)
 岐阜大定期戦(昭和四十二年四月二十三日)
 旧農学部弓道場的場

向かつて左側
 林の方向一段高い所に国児学園があ
 った。